

P:可逆操作力
R:可逆操作関係

PとRの変数が同じときには、可逆操作関係が可逆操作力の量的増大の土台となるが、やがて可逆操作力が次のより高い変数を獲得すると同時に、それまでの土台であった可逆操作関係は桎梏となる。やがてはそれまでの可逆操作関係は否定され、より高次の変数を獲得することにより、再び可逆操作力の増大が可逆操作関係の土台を持ち得、量的拡大へと向かう。

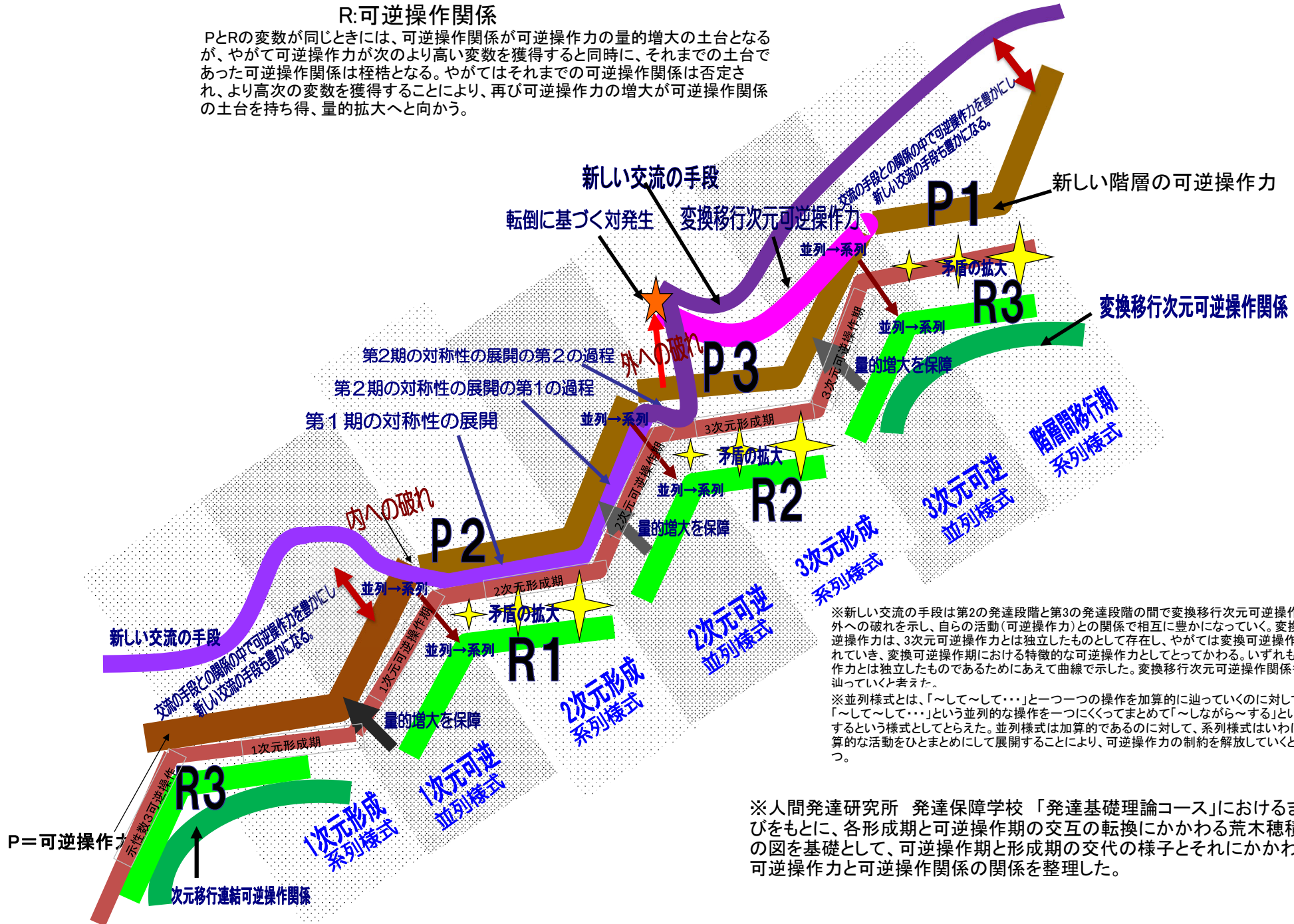


図3 次元可逆操作の階層における可逆操作力と可逆操作関係の対応図(吉留 2018)